

共同印刷、二重構造ボトルを開発 スクイーズのしやすさと鮮度保持効果を実現

共同印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:藤森康彰)は、スクイーズしやすい外殻と、内容物の減り具合に応じて収縮する内袋を備えた二重構造のボトルを開発しました。2月24日から東京ビッグサイトで開催される「TOKYO PACK 2021-2021 東京国際包装展」へ参考出品します。

当社は、2019年に共同クレハブローボトル株式会社(本社:茨城県小美玉市、代表取締役社長:土屋博明)を設立し、中容量・大容量のブローボトルを製造しています。このたび、ラインアップ拡充の一環として鮮度保持効果の高い二重構造ボトルを開発しました。

本品は独自の多層樹脂構成(特許出願済)により、容器の形状を保持しつつスクイーズしやすい外殻と、内容物の減少に伴って収縮する内袋を有する二重構造のボトルです。逆止弁機能を持つキャップとの組み合わせで、内容物の吐出時に生じる容器内への空気の逆流を抑えました。これにより内容物が外気に触れず、酸化や乾燥による劣化を防いで鮮度保持効果を発揮するだけでなく、ボトルを傾けた際の意図せぬ吐出を抑止します。また、内容物は内袋の収縮によって常に吐出口付近に充填された状態となるため、一回スクイーズするだけで簡単に適量を吐出でき、使用感の向上が見込めます。なお、外殻には剛性があるため、内容物が減っても自立するなど、従来のボトルと同様の取り扱いが可能です。

今後、当社は、この二重構造ボトルを、多様な業界へ展開すべく取り組み、生活・産業資材系事業のさらなる発展に努めます。なお、本品は、2月24日から26日まで東京ビッグサイトで開催される「TOKYO PACK 2021-2021 東京国際包装展-Tokyo International Packaging Exhibition 2021」へ参考出品します(当社ブース:W1-05 [西1ホール])。



(上)使用イメージ
(下)内容物減少に伴い内袋が収縮する様子